

第1回 土木学会 原子力土木委員会 技術多様化・普及タスク会議 議事録

1. 日時:2023 年 3 月 10 日(金)15:00～17:00

2. オンライン(Webex)開催

3. 出席者

(委員および委員兼幹事):中村, 酒井, 渡辺, 戸田

(幹事):篠田

敬称略

配付資料

資料番号	資料
資料 1-1	委員名簿
資料 1-2	技術多様化・普及タスクの発足経緯
資料 1-3	技術多様化・普及タスクの細則
資料 1-4	技術多様化・普及タスクの役割の論点
資料 1-5	年間スケジュール

4. 議題(説明者)

1) 主査挨拶(中村)

2) 技術多様化・普及タスクの発足経緯と細則(中村)

資料 1-2、資料 1-3

3) 技術多様化・普及タスクの役割の論点(中村)

資料 1-4

4) その他

4-1) 年間スケジュールと次回委員会(篠田)

資料 1-5

5. 議事録

1) 中村主査の挨拶

中村主査より, 下記の挨拶があった.

「原子力を取り巻く環境が著しく変化しており, ここ 5 年から 10 年くらいが重要となる. 皆様には, 技術多様化・普及タスクの活動にご協力願いたい.」

2) 技術多様化・普及タスクメンバー構成について(資料 1-1)

篠田連絡幹事より, 資料 1-1 を用いて, メンバー構成について説明があり, 下記の意見があった.

C: 技術多様化・普及タスクメンバー構成表には, 原子力土木委員会の役職と技術多様化・普

及タスクの役職を記載すべきである(中村主査)。

C: 勤務先名称から「原子力リスク研究センター」を削除してほしい。

C: 委嘱状は5月末までとなり、それ以降は再委嘱となる。

3) 技術多様化・普及タスクの発足経緯と細則について(資料 1-2, 資料 1-3)

中村主査より、資料 1-2 と資料 1-3 を用いて、技術多様化・普及タスクの発足経緯と細則について説明があり、特に意見はなかった。

4) 技術多様化・普及タスクの役割の論点について(資料 1-4)

中村主査より、資料 1-4 を用いて、技術多様化・普及タスクの役割の論点について説明が行われた。示された役割とそれに応じた活動目的をふまえ、具体的な実施方法について意見交換を行った。

C: 全体として賛成である。講習会に関して、地盤関連の小委員会やコンクリート関連の小委員会で単独で実施できる内容については小委員会に一任して、横断的な内容について本タスクで企画してはどうか？

Q: 現在のタスクメンバーは5人である。5人で何をどこまでやるのか？例えば、出版から時間が経過した成果物に対して、新しい知見との関係性を確認しようとした際に、タスクが確認するのか、小委員会が確認するのかが不明である。タスクが確認することを想定しているのであれば、5人ではリソースが厳しいと感じる。

A: タスクについては人数を増やしたいと考えている。皆様からもご推薦いただきたい。

Q: 関連規格情報の収集について、規格の内容まで踏み込まずに、リンク集を作ることも関連情報の共有化と公開という観点で重要と思う。

A: IAEA や原子力学会、電気協会では資料は非公開であるので(原子力学会、電気協会は議事録は公開であるが)、難しいのではないかと。出版されているものについて可能と思う。

C: 出版されている関連規格情報のリンク集があれば有益な情報となることから、作成するべきではないか。

C: 現状では、関連規格情報の具体的な内容までフォローできていないが、探したい内容がすぐに見つかるようであれば有益と思う。

Q: 関連規格情報について、知り得た新知見や新しい動向などを報告していただいて、それらの懸念事項や必要性についてタスクで共有化することが重要と考える。

C: 検討内容についてメンバーの知識に基づいているので、検討結果がメンバー依存になる懸念がある。

C: 原子力土木という制約された領域であるので、対象となる領域が限られてくる。それでも、対応可能な領域を広げると言う観点で、タスクメンバーを増やすことで対応したい。

Q: 本タスクであるが、大きく二つの役割があると思う。一つ目は、関連情報を収集して、今後の委員会活動のあるべき姿を提言する役割である。二つ目は、委託に関わる小委員会の横串を刺すイメージで情報共有や技術普及をする役割であると思うがいかがか？

A: 策定した技術文書の維持管理も重要な役割であると考えてるが、大きくはその通りである。

C: 横串の刺し方については、今後検討していく必要がある。

Q: 各メンバーが提供できる情報を持ち寄って議論してはどうか？提供された情報を踏まえてタスク会議で議論してはどうか？電中研の中島さんが海外の規格情報について整理されている。中島さんに話題提供をお願いしてはどうか？

A: 賛成である。

Q: これまで委託小委員会が出版した成果物について、解決できなかった課題を集約しておくことも重要と思う。

A: 残された課題を集約しておくことは重要である。

C: 賛成であるが、タスクメンバー依存になる懸念がある。

C: 検討内容に応じて関係者に話題提供していただいたり、適宜メンバーを追加することで対応すればよい。

Q: 今後のタスク会議の形態として、対面の方がコミュニケーションを取りやすい。

A: 賛成である。

C: 新しい体制で旅費を予算計上する必要がある。

C: 次回タスク会議は、7月下旬から8月の間に対面で開催したい。

以上